土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

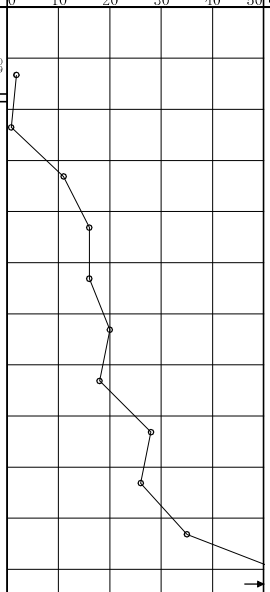
調　　査　　名　一般県道　下三永吉川線　外　災害復旧事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　道路 地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.No.2	**調査位置**	広島県東広島市西条町下三永　地内			**北緯**	34° 23′ 42.7266″
発注機関	広島県西部建設事務所　東広島支所			**調査期間**	2019年　2月 16日 ～ 2019年　2月 19日	**東経**	132° 44′ 27.3952″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**		**ボーリング責任者**	
孔口標高	GH= 192.76m	**角度**	180° 上下 90° 0° 0°	**方位**	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 18°	**使用機種**	**試錐機**	YBM　YBM-05D		
総削孔長	11.00m								**エンジン**	ヤンマー　NFD-7	**ポンプ**	安田工業　TAP-120

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
1				砂		黄褐灰～淡灰	rd1		現世	崩積土に相当する砂質土層。 砂分は中砂が優勢する。 φ2～8mmの細礫分を微量含有する。 1.5～2.6m間は含水が高く，特に1.5～1.6m間は，コアが自重で潰れるほど高含水である。 2.6～2.85m間，細粒土を不規則形状で塊状に混入する。	02/20 12:00
2	189.91	2.85									
3				砂		褐灰～淡灰	rd3		新生代第四紀更新世	在来地盤に相当する砂質土層。 マサ土質な中砂からなる。 全体に微量の細粒分を含有する。 3.7m付近に粘土の薄層を挟み，上盤側が強く酸化変色している。	
4	188.31	4.45									
5				粘土混じり砂		淡灰	rd3			全体に白色の粘土分を含有する。 砂は粗中砂が主体。 4.45～4.8m間はやや高含水。 5.45～6.0m間，コアが自重で潰れるほど高含水。 5.55m以深，細礫分を混入するようになる。	
6	186.76	6.00									
7				砂		淡灰～緑灰	rd3			細中砂を主体とする。 6.7～6.85m間は含水が高く，コアは少し潰れている。 6.85m付近より，やや顕著に色調変化する。	
8	185.31	7.45									
9				砂礫		淡灰～淡青灰	中ぐらいの～密な			礫分はφ30mm程度以下のものが主体をなし，最大のものでも55mmである。 角の取れた亜角～亜円礫が多い。 マトリクスは粗中砂からなり，ごく微量の細粒分も含有している。 9.45～9.55m間，高含水の細中砂であり，コアの形状をなさない。 8.45～9.0m間は，落下したコアを再採取したものであり，スライム等を含んでいる。 ただし，礫分も少なからず含んでおり，砂礫の一部であることは間違いない。	
10											
11	181.76	11.00									



標準貫入試験 N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
	1.15	1	1		2		
2	1.48	170	160		330		
	2.15	1			1		
1	2.33	380			380		
	3.15	2	4	5	11		
11	3.45				300		
	4.15	5	5	6	16		
16	4.45				300		
	5.15	4	5	7	16		
16	5.45				300		
	6.15	3	7	10	20		
20	6.45				300		
	7.15	6	6	6	18		
18	7.45				300		
	8.15	10	9	9	28		
28	8.45				300		
	9.15	8	7	11	26		
26	9.45				300		
	10.15	7	11	17	35		
35	10.45				300		
	11.15	7	25	18	50	250	250
60	11.40				250		

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					2/18
					2/19